

HTLV-I (成人 T 細胞性白血病・リンパ腫)

それ以前から知られていたのだが、主に鹿児島と長崎県の慢性リンパ性白血病は、他の地域とは異なっていて全身の皮膚に紅斑ができるのが普通であった。30年ほど前に血液中の白血球の形態が、他の慢性リンパ性白血病の細胞(腫瘍細胞)とは、似ているけれども少し異なっていること、骨髄(ヒトの血球は、すべて骨髄で造られて、末梢血にでてくる)には、腫瘍細胞がほとんどみられないこと、全身の皮膚に少しもり上がった赤い発疹がみとめられること、全身のリンパ節が腫れて大きくなることなど特徴的であることがわかってきた。

そして、もっとも大きな特徴が3つみつかったのである。

ひとつは、この腫瘍細胞から、ウイルスが発見されたことである。一般に白血病はウイルスによって発生すると唱える人が多かったのだが、ニワトリなどではみつかったが人間では証拠はみつかっていなかった。この、地域特異性のある慢性リンパ性白血病で初めてみつかったのである。これを、ATL:成人 T 細胞性白血病と呼ぶ、つまり独立した疾患としてみとめられるようになった。さらに、リンパ節が腫れて悪性リンパ腫(リンパ節の悪性腫瘍)もみられることから ATLL(成人 T 細胞性白血病・リンパ腫)と呼ぶようになった。この病気の原因のウイルスを HTLV-I と名づけた。ちなみに、HTLV-III は、いわゆる HIV(エイズウイルス)のことである。この2つのウイルスは、きわめてよく似ていることもわかってきた。

ふたつめの特徴は、日本人にのみみられて、他の人種(黒人や白人)では、きわめてまれにしかみとめられないことである。

さらに、きわだった特徴がある。鹿児島・長崎と書いてきたが、それ以外の県でも、少しずつ、同じようなタイプの白血病・リンパ腫がみつかった。熊本、佐賀、宮崎、高知、和歌山県である。すなわち、沖縄県あたりの一部から黒潮に乗って、黒潮の流れに沿うようにウイルスが太平洋岸に沿って北上し、一部は対馬海流に分岐して北上するのである。

このウイルスは先祖代々、DNA の中に組みこまれていると考えら

れるが、すでに述べたように輸血でも感染するし、性交渉でも感染する。さらに、母乳から乳幼児にも感染する。この場合母乳をいったん-20℃に冷凍し、その後解凍して飲ませる。だから妊婦は必ず、このウイルスがあるかないかをしらべる。直接母乳を与えると感染するからである。

ある女性が、産科医に「渡辺謙みたいな白血病がでてくるから、母乳をやってはいけない」と言われた。細かい説明はなかったという。たまたま小生のところを受診したので、きちんと説明すると、「それなら、そう言うてくれればいいのに・・・」と不満を現した。当然である。しかし、この白血病について産科医でも知らない人がきわめて多いのである。

HTLV-I ウィルスをもっている（HTLV-I ウィルス・キャリアー）、白血病などを発症するのは、全員ではない。数十人に1人くらいではないだろうか。また、潜伏期間も数年から数十年といわれている。要するに予測がつかない。上の女性に「出身はどちらですか」ときくと大阪です、という。「ちゃうがな。御両親のことや」父は大阪で母は甕島です。これで全部説明できる。渡辺謙も高倉健もない。

このウイルスをもっているかどうかは、採血すればすぐわかる。血液センターで献血して初めてわかる人もある。つまり、それくらい、普段は健康だということである。